

JSS (東京、倭文浩樹
社長) は「企業は人なり」
の考え方ど、全従業員に
対し最新技術・知識に基づ
く徹底した教育を実施して
いる。「社員教育こそJSS
の原点」とする同社では、
現場で働く警備員のス

キルアップはもとより、幹
部社員のクオリティを高い
水準で均一化するための努
力を惜しまない。

同社の幹部研修は「造然

塾」と呼ばれ、倭文社長自
らが主宰する。幹部社
員と交話しながら、業務に
対する理解を深めていくこ
とが狙いで、「幹部一人ひ
どのが一国の宰相になつた
つもりで業務にあたってほ
しい」と、倭文社長の願
いが込められている。

造然塾のネーミングは、
老子の言葉「超然之氣（こ
わせんのき）」におよんで
いる。幹部の参加は自由意志
で、幹部社員がこの塾で得た知
識を周囲に伝達することと
していている。

倭文浩樹社長
幹部社員がこ
の塾で得た知
識を周囲に伝
達することと
していている。
幹部の参加は
自由意志と
されている。



社長自らが「塾」を主宰 独自の教材で幹部研修

少人数制で実施される幹部研修

長するには、そこで働く社
員が成長しなければならな
い、といつ気概を持って参
加してほしい」(倭文社長)
塾で使用される教材は全
て独自に作成されたもの。
机上の空論となることのな
いよう、現場に即した内容
のものが使用されている。
また、教材には人格形成に
役立てるという意味から、
中国の儒家者・王陽明の師
・龜鏡(かいてん)の言葉
と後漢書の中から引用した
言葉を掲載、講義の最初に

「人を育てるのは植物を
育てるのと似ている。それ
ぞの植物に参画したいと
する」となく、常に精進す
る目的で、業務に必
要な技術を研鑽し、会社の
目的や計画について理解を
深めることが、社長の分身
の「ひと」業務遂行できる幹
部社員の育成が実践されて
いる。また、幹部社員がこ
の塾で得た知
識を周囲に伝
達することと
していている。
幹部の参加は
自由意志と
されている。

「今の自分に満足してい
たい者、今より昇進・昇給
したい者、将来会社の重役
めでもらいたい。会社が成
れども思っている。ただ
して、参加するからには食欲
に何かを吸収し、自分を高
めてもういたい。会社が成
りた育成法が必
要。その点、
幹部研修会は少人数制で実施されている
ので、一人ひとりに細かな
対応ができるのがメリッ
ト」と倭文社長は語る。

昨今、犯罪は進化の速度
を上げますます凶悪化、多
発化の傾向にある。これに
対応ができないのがメリッ
ト」と倭文社長は語る。

JSSは、社会の変化に敏感に対
応した教育を実践し、国民
が安心して暮らせる街づくり
にこれからも貢献していく

う。人間も、その人に合つ
た育成法が必
要。その点、
幹部研修会は少人数制で実施されている
ので、一人ひとりに細かな
対応ができるのがメリッ
ト」と倭文社長は語る。